# 生活実践力を育む家庭科学習指導に関する研究

## ― 問題解決的な学習における「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させた題材構成の工夫を通して ―

安芸高田市立根野小学校　武添　寿子

**研究の要約**

本研究は，小学校第６学年家庭科「衣服の着用と手入れ」において，生活実践力を育む学習指導の工夫について研究し，考察したものである。文献研究から，生活実践力を育むためには，問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させた授業を行うことが重要であることが分かった。そこで，本研究では，実践を評価し，改善することを通して見いだした課題を追究する問題解決の過程を繰り返す題材構成の工夫を行い，生活実践力の育成をめざした。その結果，自ら課題を見いだし，その解決方法を導き出し，行動していく主体的な児童の姿が見られるようになった。このことから，問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させた題材構成の工夫は，生活実践力の育成に有効であることが明らかになった。

**キーワード：生活実践力　問題解決的な学習　課題発見　評価，改善**

## Ⅰ　研究の目的

家庭科教育では，よりよい生活をめざして，現実の生活状況を判断し，処理しながら，学んだことを自分の生活の中で生かしていく生活実践力を育むことが求められている。しかし，現実の児童の生活をみると，学習した知識や技術などが実生活で十分生かされていないという課題がある。その課題を受けて，中央教育審議会答申（平成20年１月）では，実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習をより一層重視することが示された。

しかし，問題解決的な学習の現状についての調査（平成23年）によると，問題解決的な学習を実践する上で,指導者は児童に主体的な取組をさせること，考えさせることを困難に感じていることが報告されている。また，全国小学校家庭科教育研究会「全国調査のまとめ」（平成25年）によると，問題解決的な学習を「よく行う」と回答した指導者は21％である。さらに，荒井紀子（2009）によると，設定された学習課題の多くは，指導者が与えたものとなっている。このように，家庭科教育において，問題解決的な学習の充実が求められているにもかかわらず，実際には児童が主体的に取り組む問題解決的な学習が十分には行われていない。

家庭科授業における問題解決的な学習は，課題をもって計画し，実践，評価，改善する一連の流れに基づいて行う。先行研究では，問題解決的な学習の計画から評価までの過程を組み入れて構成された題材は多い。しかし，評価することによって見いだされた課題をさらに追究し解決方法を考え，実践に生かすという過程を含めて構成された題材とはなっていない。そのため，これからの問題解決的な学習には，①児童自身が生活から課題を設定すること，②一連の学習を評価することで見いだされた課題をさらに追究し,改善につなげていくことが求められる。

そこで本研究では，問題解決的な学習の課題発見の過程と，評価から改善への過程を充実させた題材構成の工夫を行うことで，学習したことを生活に実践しようとする児童の育成をめざし，その取組の有効性を検証する。

## Ⅱ　研究の基本的な考え方

### １　生活実践力と家庭科教育

#### (1) 小学校家庭科で育む「生活実践力」とは

家庭科は，衣食住などの暮らしの営みをまるごと学習題材とし，児童自身が主体的によりよい生活を創り出す力を育てる教科である。

福田公子（2005）は，「生活実践力」とは「学習者の家庭生活を中心として現実生活世界の中で，福祉および自己実現をめざして，生活環境や生活文脈を熟慮して，より適切な生活行為を遂行する能力」[1)]であると述べ，考えをめぐらし，よりよい生活を成

し遂げる力と捉えている。

西敦子（2005）は，「実践力」とは「人間が自分の意志に基づいて生活対象に対して行動を起こし，よりよい方向に変化させていく力」[2]であり，「その結果によって行動の善し悪しを問い直すと共に，場合によっては意志決定の元になった認識を問い直すことにさかのぼり，次の行動を思考していく力」[3]と捉えている。また，「実践力」を「『実行して終わり』ではなく，『行動の結果からさらに課題を見い出し，発展的に課題を解決する力を含んでいる』」[4]と述べている。そして家庭生活を中心とした人間の生活を対象としている家庭科における実践力を「生活実践力」と捉えている。

これらのことから，「生活実践力」には，よりよい生活をめざして考え，判断し，主体的に行動する力が含まれているといえる。

よって本研究において，小学校家庭科で育む「生活実践力」とは，見いだした生活の課題に応じて思考し，判断し，適切な解決方法を導き出しながら，よりよい生活をめざして主体的に行動する力と捉えることにする。

### (2) 児童の実態から

全国小学校家庭科教育研究会「全国調査のまとめ」（平成25年）の調査結果によると，「ボタン付け」「自分の衣服の手洗い」「ミシン縫い」など家庭科で学習したことを家庭で実践している児童の割合は，40%である。このことから，よりよい生活をめざして，学習したことを家庭で実践しようとしている児童が多いとはいえない。

曽我部多美（2013）は，家庭科で学習したことが生活に生かされない背景として，生活が便利で豊かになったことによって，生活について考えたり，工夫したりする必要性が減ってきたことを指摘している。これは，生活の中で考えるべき課題が減少したことを示しているのではない。生活の変化によって，存在している生活の問題が見えにくくなり，課題意識を生じなくなった児童の今日の現状を示している。よって，よりよい生活をめざして実践しようとする主体的な児童を育成するためには，まず，生活の課題を見いだす力を児童に育む必要があるといえる。

家庭科が将来にわたって変化し続ける社会に対応し，生活を営むことができる力を育成することは周知の通りである。長澤由喜子（2013）は，上記のような児童の実態を受けて，生活で直面する様々な課題の解決を通して，家族の一員として生活をよりよくしようとする児童の実践的な態度を育てる必要性を述べている。また，児童が生活で直面する問題は，家庭によって様々であり，価値観の多様化，時代の変化に伴って問題の質も大きく変わってくるため，直面した問題に応じてよりよい解決方法を導き出す方策を身に付けさせる必要性も述べている。すなわち，多様に変化する社会でよりよい生活を営むには，生活場面で直面する問題に応じて主体的に思考し，判断して，適切な解決方法を導き出し，行動していく生活実践力が必要といえる。

このように，生活の中の問題に気付きにくくなり，実生活において思考したり判断したりする機会が十分にない状況があるからこそ，小学校家庭科において，生活の課題を見いだす過程を重視した生活実践力を育む授業の充実が求められているといえる。

## 2　生活実践力を育む問題解決的な学習とは

### (1) 生活実践力を育む授業

日本家庭科教育学会は，「全国調査からみた家庭科の学習効果と家庭科カリキュラムへの提言」(2004)の中で，「考えるようになった」「気付くようになった」と感じられる授業をすることにより，児童に生活の技能を身に付ける意欲をもたせたり，学習したことをより多くの実践につなげさせたりできると指摘している。

長澤由喜子（2004）は，家庭での仕事の実践意欲を向上させるには「子どもたちがそれぞれの生活経験に基づいて，どのように『気づき』なぜそう『考え』，その結果としてどのように『わかり』，そして『できた』としての達成感がもたらされるのか，これら一連の学習プロセスを子どもたち一人ひとりに保障するために『なぜ』『どのように』をきめ細やかに問う授業」[5]が必要であると述べている。

これらのことから，学習したことを生活に実践しようとする力を高めるには，生活の課題に気付いたり，課題を解決するために考えたりする過程の充実を図る問題解決的な学習を取り入れた授業に学習効果があるといえる。

### (2) 求められる問題解決的な学習の在り方

渡辺貴裕（2010）は，問題解決的な学習は子ども自身がまず問題を把握して学習していくことであるとし，「子どもの内面に『問題把握』―『究明』―『解決（および新たな疑問）』という一連の流れを生みださなければ」[6]ならないと述べている。

荒井紀子（2009）は，家庭科で問題解決的な学習として行われてきた学習を二つの系列に分類し，表１のように分析している。

表１　問題解決的な学習の二つの系列

| 系列 | 実証的な学習 | 実践を振り返る学習 |
|---|---|---|
| 特徴 | 生活に関わる知識や技術を実験や実習を通して確認する実証的な学習 | 日常生活に関わる問題を見つけ，その改善や解決の方法を考え，実践を振り返る学習 |
| 具体例 | ご飯を米の浸水時間を変えて炊き，違いを確認する。 | 部屋をきれいにする計画を立て実践する。 |
| 改善すべき点 | 固定された教育内容を前提とし，模範解答に近づくことが要求される学習。生活の中に「問題を」さぐり実践する力が育てられていないため学習したことが実生活に生かしきれていない。 | 問題のテーマはすでに決められていて，それに対して工夫して取り組むというもの。問題発見の手立てがとられず，問題意識をもてないまま実践に取り組む。 |

荒井は，家庭科における問題解決的な学習の多くは，児童自身が問題そのものを感知し，問題をつかみ，それに取り組むといった，児童の興味・関心から出発し，探究を保証する学習とはいえず，与えられた課題を解決していく「課題解決学習」がなされていると指摘し，児童自身が見いだした課題を解決していく探究型の問題解決的な学習の必要性を述べている。

以上のことから，家庭科における問題解決的な学習は，これまで問題解決的な学習と捉えていた学習の在り方を見直し，児童自ら課題を見いだし，課題を解決していく探究型の問題解決的な学習を行っていく必要があるといえる。

### (3) 問題解決的な学習の充実を図るために

#### ア　家庭科における問題解決的な学習の過程

佐賀県教育センター個別実践研究中学校家庭科教育研究委員会（2012）では，問題解決的な学習の過程を図１のように示している。「教師側の一方的な課題提示ではなく，生徒自身が課題に気付き，意欲的な課題解決につながる生徒の主体的な学びを引き出す工夫」として「計画」の過程を「課題発見」と「意思決定」の二つに区分し，「課題発見」の取組を「計画」の段階に明確に表記している。

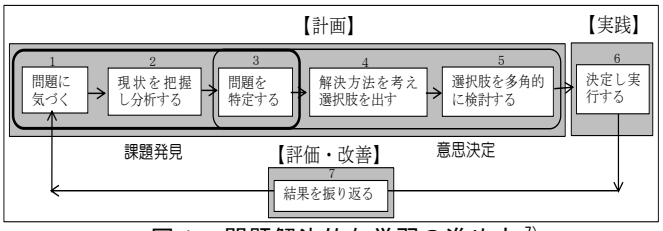


図１　問題解決的な学習の進め方 [7]

柴田陽子（2011）は，問題解決的な学習を充実させる問題解決的な学習の過程を次のように示し,「課題」の過程を「計画」とは区別して位置付け，課題を見付ける過程を重視している。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 生活を見つめ課題を見付ける。 | （課題） |
| ② | 問題解決への見通しをもつ。 | （計画） |
| ③ | 実際にやってみる。 | （実践） |
| ④ | 過程や結果の評価からさらなる課題をもつ。 | （評価・改善） |

問題解決的な学習の過程　柴田（2011）

これらのことを踏まえて，本研究では，「課題発見」の過程を重視し，問題解決的な学習の「計画」の前に「課題発見」の過程を設定する。本研究の問題解決的な学習の過程を，表２に示す。

表２　問題解決的な学習の過程と学習内容

| | 過程 | 段階 | 学習内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「課題発見」 | 問題に気付く<br>課題を見いだす | ・生活を見つめ直し問題を意識する<br>・課題を明確に捉える |
| 2 | 「計画」 | 解決方法を見通す | ・課題を解決するために解決方法を検討する |
| 3 | 「実践」 | 問題解決を実行する | ・最善と思われることを判断し，行動に移す |
| 4 | 「評価，改善」 | 実践を振り返る | ・実践を振り返り，新たな問題を明らかにして次の実践に生かせるようにする |

なお，本研究においては，児童が自分の生活を振り返って見付けた問題点の中から，解決すべきものとして取り上げたものを課題とよぶこととする。

#### イ　「課題発見」の在り方

福田修（2009）は「問題とは『理想と現実の差異』である。この差異を認識して初めて問題を可視化できる。」[8]と述べている。

「『問題解決能力』育成のためのガイドブック」（平成20年）では,問題の認識に必要なこととして，困難に直面したり，現状とあるべき姿のずれを認識したり，解決への意欲をもてるようにしたりすることが挙げられている。また,問題の認識のためには，「体験的な活動を積極的に取り入れ，『問題』を実感できるようにする」[9]ことや「児童・生徒にとって解決したい切実な問題になるように配慮する」[10]ことが示されている。

これらのことから，「課題発見」の過程では，児童が自身の生活を振り返り，現状の課題を認識する場面が必要といえる。また，これまで当たり前としていた自身の生活から問題意識をゆさぶり起こし，問題を実感できるようにするためには，実践的・体験的な活動を積極的に取り入れることが効果的といえる。

#### ウ　「評価，改善」の在り方

綿引伴子（2009）は，「振り返りは『学習の終わり』を意味するのではなく，そこからまた新たな問題の推論へスパイラルしていく『学習の始まり』にもなる。」[11]と述べている。

鳥井葉子（2005）は，評価について「学習者に自分の学習を振り返らせ新たな学習課題を見つけさせるためにも必要である。あるいは学習者相互の評価を通して学習者自身が気づかなかった点に目を向けることで学習を深めることもできる。このような自己評価や相互評価は，家庭科授業で生活実践力をつけるために，さらには生涯学習を継続するために不可欠である。」[12]と述べている。

荒井紀子（2009）は，「実践や行為は，そこにいたる思考や判断の帰結であり，思考や判断こそ，実践や行為の質を決定するという考え方が背景にあることである。したがって，実践や行為はそこで終わるわけではない。次の段階では，その結果を吟味し，問題点を明らかにして次の新たなる実践的推論に踏み出すという螺旋形の思考と判断，実践との積み上げが前提とされているといえるだろう。」[13]と述べ，実践したことや結果を評価，改善する過程で新たな課題発見につなげる問題解決の過程の重要性を示唆している。

また，荒井（2009）は，これからの問題解決的な学習で意識的に取り入れたい視点として次の４点を挙げている。

○　問題の発見から振り返りまでの探究のプロセスをより丁寧に段階を踏んで設定する。
○　探究のプロセスの中では，問題の着目から，問題の特定，解決の選択肢の検討を丁寧に行う。
○　問題解決の最適の方法としてとろうとする行為のもつ意味や相互の関連を生徒自身が理解し，状況に応じた行為を吟味する力を育てる。
○　問題解決学習をぶつ切りに行うのではなく，生徒の積み上げに配慮する。

これからの問題解決学習で取り入れたい視点　荒井(2009)

これらのことから，児童の振り返り，つまり「評価，改善」の過程において，新たな問題意識を児童にもたせていくことは，児童の主体的な学習活動を引き出すために必要な手立てであるといえる。

## ３　題材構成の工夫について

### (1) 題材構成の視点

金城久美子ら（2012）は，小学校家庭科の題材を構成する上で考えるべき基本的な視点として，「生活に必要な知識」「生活に最低限必要な技能」「生活課題を発見し自分で選択や判断を行い解決する問題解決のプロセス」を挙げている。

金子佳代子（2008）らは，「家庭科は，学習内容のみならず，家庭科の学び方，すなわち問題解決的な学習過程そのものに教科のねらいを達成するための重要なポイントがある。このことを十分に踏まえて，児童の学習の道筋を構想し題材構成することが大切である。」[14]と述べている。

これらのことから，題材構成においては，問題解決的な学習の過程を効果的に取り入れることが必要とされる。また，題材のねらいを達成するためには，児童から出てくる考えなどをある程度予想し，学習の道筋を構想した上で問題解決的な学習過程を取り入れ，題材を構成する必要があるといえる。

### (2) 題材構成と問題解決的な学習

金子佳代子（2008）らは，題材構成に当たっては，題材の「入口」と「出口」に児童の日々の生活を位置付け，自分の生活から出発して自分の生活に戻るように構成してある題材構成がふさわしいと述べている。

岸田蘭子（2011）は，題材を構成するに当たっては，小題材を①課題を見付け解決の計画を立てる，②体験する・調べる，③生活の中で実践する，④実践を評価し改善点を明らかにするという４段階で構成し，これを繰り返すことが好ましいとし，このスタイルをとることで自ずと思考の流れができあがっていくと述べている。また，問題に気付いたり，課題を設定したりするという学習を繰り返し経験することが，主体的に学習に取り組む学びの入り口を習得することになると述べている。

これらのことから，生活の課題を解決していこうとする児童の主体性を育むには，児童の生活と結び付けた問題解決的な学習を繰り返し取り入れた題材構成を行うことが有効であるといえる。

### (3) 題材構成の工夫

これまで述べてきたことを踏まえ，本研究における題材構成の工夫として，次の２点を挙げる。①問題解決的な学習を繰り返し取り入れ，課題解決の方法を導き出すことができるようにする。なお，この「繰り返し」は，題材のねらいの達成に向けて変化のある意図的な繰り返しとする。②題材の中に実習や家庭での実践を意図的に組み入れ，それらを評価，改善することを通して児童が生活の課題を実感できるようにし，「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させる。

# Ⅲ　研究の仮説及び検証の視点と方法

## １　研究の仮説

問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させ，題材構成を工夫した授業を行え

ば，見いだした生活の課題に応じて思考し，判断し，適切な解決方法を導き出しながら，よりよい生活をめざして主体的に行動する生活実践力を育むことができるであろう。

## ２　検証の視点と方法

本研究の検証の視点と方法を，表３に示す。

表３　検証の視点と方法

| 検証の視点 | 方法 |
|---|---|
| ①　自分の生活の課題を見いだすことができたか。 | アンケート・ワークシート |
| ②　自分の生活の課題を解決する方法を導き出すことができたか。 | アンケート・家庭実践シート<br>プレテスト・ポストテスト |
| ③　学習したことを生活の場に生かして実践することができたか。 | 家庭実践シート |
| ④　問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させた題材構成は有効であったか。 | アンケート・ワークシート |

# Ⅳ　研究授業について

## １　研究授業の内容

○　期　間　平成 26 年６月 23 日～平成 26 年７月７日
○　対　象　所属校第６学年（１学級15人）
○　題材名　衣服の着方と手入れを工夫しよう
　　「めざせ！洗たくの達人」
○　目　標
　衣服の働きや日常着の手入れの必要性が分かり，衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫したり，衣服を洗濯したりすることができる。
○　指導計画（計10時間）

| 次 | 時 | 学習内容 | 問題解決の過程 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1<br>2 | ○衣服の働きや着方に関心をもつ。<br>○洗濯の必要性を理解する。<br>・ニンヒドリン液による汚れ実験，布の吸水実験を通して，洗濯の必要性に気付く。 | 【課題発見】 |
| 2 | 3 | ○洗濯①を行う。<br>・くつ下の洗濯を行い，洗濯を見つめ直す。<br>・洗濯①から見いだした課題の解決方法(改善策)を考える。 | 【計画】<br>【実践】<br>【評価，改善】<br>【課題発見】 |
| | 4 | ○洗濯②を行う。<br>・洗濯①の改善策を基に，よりよい洗濯の手順でくつ下の洗濯を行う。<br>・洗濯②から見いだした課題の解決方法を考える。 | 【計画】<br>【実践】<br>【評価，改善】<br>【課題発見】 |
| | 5 | ○洗濯②から見いだした課題を解決する。<br>・家庭で調べた課題を解決する方法を，実際に試し，課題の解決方法を導き出す。 | 【計画】<br>【実践】<br>【評価，改善】<br>【課題発見】 |
| | 6<br>7 | ○洗濯③を行う。<br>・洗濯②の改善策を基に，３種類の衣服の洗濯を行う。<br>・洗濯③から課題を見いだす。 | 【計画】<br>【実践】<br>【評価，改善】<br>【課題発見】 |
| | 8 | ○洗濯③と洗濯④から，見いだした課題を解決する。<br>・洗濯③から見いだした課題と洗濯④（家庭での実践）から予想される課題を解決する。 | 【計画】 |
| | 家庭 | ○家庭での洗濯④を行う。<br>・洗濯①～③で身に付けたことを生かして家庭での洗濯物に応じて洗濯を行う。 | 【実践】<br>【評価，改善】<br>【課題発見】 |
| | 9 | ○洗濯④の実践報告会を行う。<br>・家庭での洗濯を振り返り，見いだした課題を解決する。 | 【評価，改善】 |
| 3 | 10 | ○衣服の着方と手入れの学習のまとめを行う。 | |

## ２　授業の実際

「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させるために，４回の洗濯を題材に組み入れた。その際，題材のねらいを達成するために，変化のある意図的な洗濯を仕組んだ。４回の洗濯の内容について表４に示す。

表４　洗濯の内容

| | 洗濯の名称（・洗濯物） | 意識した課題 | 「課題発見」「評価，改善」につながる学習活動 |
|---|---|---|---|
| 洗濯① | チャレンジ！<br>洗たく名人<br>・靴下片方 | 手際のよい洗濯の仕方 | ・使用した洗剤の量，水の量，かかった時間，手順の記録を行いながら，経験に基づいて洗濯①を行う。<br>・洗濯①の課題を出し合い，改善策を話し合う。 |
| 洗濯② | ステップアップ！<br>洗たく名人<br>・靴下片方 | 汚れ落ちのよい洗濯の仕方 | ・洗濯②を行い，洗濯①と比較し見いだした課題を交流し合う。<br>・汚れ落ちのよい洗い方について調べ，実際に試し，その効果を全体で交流し合う。 |
| 洗濯③ | パワーアップ！<br>洗たく名人<br>・靴下一足<br>・体操服<br>・家庭から持参した衣服１着 | 様々な衣服の洗濯の仕方 | ・洗濯③を行い，洗濯①②と比較し見いだした課題を交流し合い，課題の改善策を話し合う。<br>・衣服の色落ち演示実験を観察する。<br>・取り扱い絵表示の意味と見方について知る。 |
| 洗濯④ | レベルアップ！<br>洗たくの達人<br>・家族の衣服 | 家庭での衣服の洗濯の仕方 | ・洗濯④を行い，学校での洗濯と比較し家庭での洗濯で課題を見いだす。<br>・見いだした課題についてグループで改善策を出し合い，各家庭での課題を解決し合う。 |

４回の洗濯において児童が見いだした主な課題やその課題の解決方法（児童には「改善策」と示した）の実際について表５に示す。

表５　実際の授業で児童が見いだした主な課題とその改善策

| 次 | 時 | 主な課題 | 主な改善策 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1<br>2 | 洗濯をどのようにすればいいのか。 | |
| 2 | 3 | すすいでも洗剤の泡が落ちなかった。<br>↓<br>手際のよい洗濯の仕方 | 「手洗い」の後「しぼる」過程を入れて洗剤をよく落とす。 |
| | 4 | 手順よくできたが，汚れ落ちがよくなかった。<br>↓<br>手際よく汚れ落ちのよい洗濯の仕方 | 洗剤の量・洗い方・道具の工夫を行う。 |
| | 5 | 落ちる汚れと落ちにくい汚れがあった。<br>↓<br>落ちにくい汚れの洗濯の仕方 | 汚れによって洗剤の種類を変える。 |
| | 6<br>7 | たくさんの洗濯物を洗うときどうすればよいのか。<br>↓<br>よりよい仕分けの仕方・干し方・取りこみ方・たたみ方 | 取り扱い絵表示を見て衣服に応じた洗濯を行う。 |
| | 8 | | |
| | 家庭 | しみついて洗濯しても落ちない汚れがあるなど，家庭では学校と違う洗濯の課題が出てきた。<br>↓<br>家庭の課題に応じた洗濯の仕方 | 学習したことを生かして，自分で改善策を考えて洗濯を行う。 |
| | 9 | | |
| 3 | 10 | | |

授業では，「課題発見」から「評価，改善」までの過程を見通せるワークシートを準備し，課題や解決方法を明確にできるようにした。図２は洗濯③の学習で使用したワークシートである。

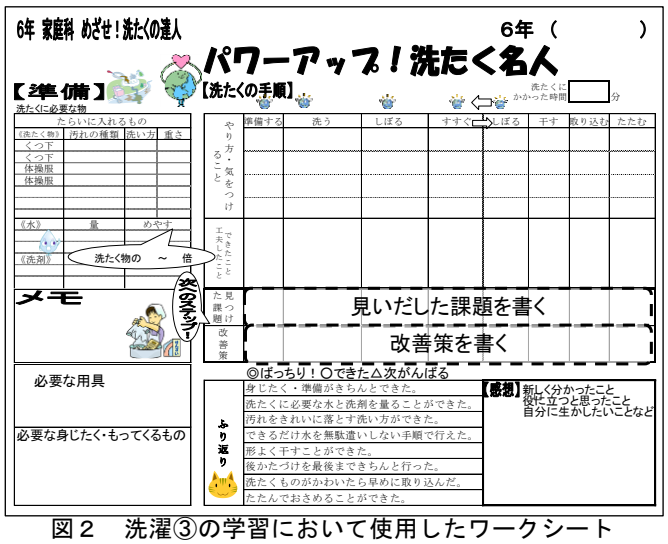

図２　洗濯③の学習において使用したワークシート

## Ⅴ　研究授業の分析と考察

### １　自分の生活の課題を見いだすことができたか

#### (1) ワークシートの分析から

まず，ワークシートの記述から児童が見いだした課題の変化を分析する。図３は４回の洗濯の中で児童が見いだした課題についてまとめたものである。

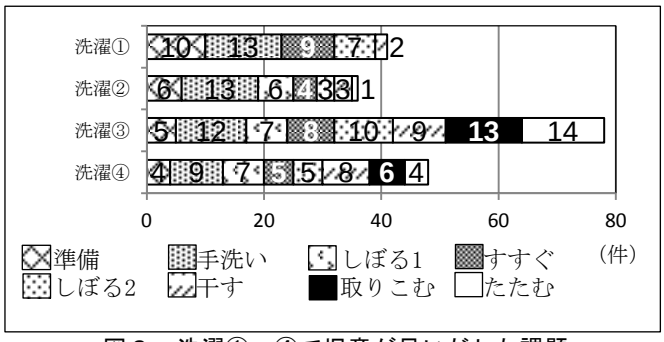

図３　洗濯①～④で児童が見いだした課題

洗濯①では，洗濯の基本となる八つの手順のうち，「準備」「手洗い」「すすぐ」「しぼる２」「干す」についての課題は見いだされたが，「しぼる１」「取りこむ」「たたむ」についての課題は見いだされなかった。しかし，洗濯③④になると，全ての手順において洗濯の課題が見いだされるようになった。

次に洗濯①～④において児童Ａが見いだした課題の具体を表６に示す。

表６　洗濯①～④において児童Ａが見いだした課題

| 洗濯 | 見いだした課題（抜粋） |
|---|---|
| 洗濯① | ・必要な洗剤の量がよく分からない。<br>・洗っても汚れ落ちが悪い。 |
| 洗濯② | ・手際よく洗濯できた分，汚れ落ちが悪い。 |
| 洗濯③ | ・洗濯物が大きく，強くしぼることができなかった。<br>・干すとき服から水が垂れていた。<br>・たたむとき雑になった。 |
| 洗濯④ | ・洗濯した後たたんだ服がしわになっていた。 |

洗濯①②で児童Ａが見いだした課題には，必要な洗剤の量や汚れ落ちに関わるものが多かった。しかし，洗濯③④になると，干したりたたんだりする手順において課題を見いだせるようになった。これは，見いだした課題を評価，改善していく問題解決的な学習を繰り返すことによって，児童Ａの課題に気付く視点が広げられたことを示している。

以上のことから，児童は問題解決的な学習の経験を積むことによって，洗濯を見つめ直し，これまで意識していなかった課題を見いだすことができるようになってきたと考える。

なお，洗濯②で見いだされた課題が減少しているのは，洗濯①と洗濯②の洗濯物が同じであり，洗濯①の課題の改善策を意識して洗濯②を行ったためである。また，洗濯④の課題が減少しているのは，洗濯④の前に「予想される課題」の解決を行い，改善策を意識した洗濯であったためであると考える。

#### (2) アンケートの分析から

次に，学習前と学習後の課題意識についてのアンケート結果を図４に示す。

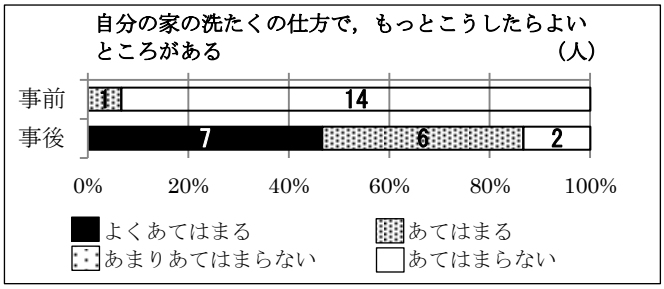

図４　家庭の洗濯の仕方に対する児童の課題意識

学習前と学習後を比較すると，家庭での洗濯において，改善していきたい課題を見いだす児童が増加した。課題の具体には「洗剤を多く使いすぎないようにする」「つけおきして洗濯したらよい」「よごれしみがついたらすぐにこすり洗いをして落とす」などが見いだされ，授業で扱った学習内容が生かされていた。

以上（１）（２）から，児童は学習前と比べて自分の生活をよりよくするために課題を見いだすことができるようになったといえる。

## ２　自分の生活の課題を解決する方法を導き出すことができたか。

### (1) プレテスト・ポストテストの分析から

プレテスト・ポストテストにおいて，６種類の衣服の洗濯時の仕分けの視点についての調査を行った。表７はその結果をまとめたものである。

表７　洗濯の仕分けの視点（個）

| 仕分けの視点／テスト | 汚れの種類 | 着た日数 | 衣服の素材 | 衣服の色 | 衣服の種類 | 色落ちの有無 | 取り扱い絵表示の内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| プレ | 13 | 7 | 10 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| ポスト | 12 | 3 | 11 | 5 | 0 | 7 | 2 |

プレテストでは，「汚れの種類」「衣服の素材」「着た日数」に着目して仕分けをしている児童が多かったが，ポストテストでは，よりよい洗濯のために必要な視点「色落ちの有無」や「取り扱い絵表示の内容」に着目して仕分けをする児童が増えた。これは，洗濯③で見いだされた課題「様々な衣服の洗濯の仕方」を解決するために行った色落ち素材・取り扱い絵表示の学習が生かされた結果といえる。プレテストに比べてポストテストにおいて「着た日数」に着目した児童が減少したのは，第２時に行ったニンヒドリン実験により，目に見えない汚れが児童に意識され，着用した日数に関係なく着用後には洗濯が必要であるという認識がなされた結果といえる。

これらのことから，学習を通して児童は，よりよい洗濯のために必要な衣服の仕分けの方法を身に付け，実践に生かせるようになってきたといえる。

### (2) 家庭実践シートの分析から

洗濯④で使用した家庭実践シートにおける児童の記述を下に示す。点線部は，課題を見いだしている記述，下線部は，課題に対する改善策の記述である。

○　あまり汚れが落ちなかったので洗濯板でするともっときれいにできたと思った。次からは洗濯板を使ってしようと思った。（児童Ｂ）
○　Ｔシャツを洗うとき，Ｔシャツの色が色落ちしてしまったので白じゃないＴシャツを洗うときは，他の物と洗わない方がよいということが分かった。（児童Ｃ）
○　今日は前よりも洗うものが多くて大変だった。洗たく時間をもう少し早くしてもよかったかもしれないと思ったので，次は今日より時間を早く終わらせることができるようにしたい。（児童Ｄ）

児童の記述

点線部の記述からは，児童が自分の洗濯を見つめ直し，課題を見いだしていることが分かる。下線部の記述からは，生活をよりよい方向に変えていくためによりよい方法を考え，実践に移していこうとする児童の姿がみられる。上記の児童のように家庭での洗濯④において自分の課題を見いだし，その改善策を考えることができた児童は15人中14人であった。

### (3) アンケートの分析から

次に，課題解決へ向けての児童の意識の変容について，アンケート調査の結果を図５に示す。

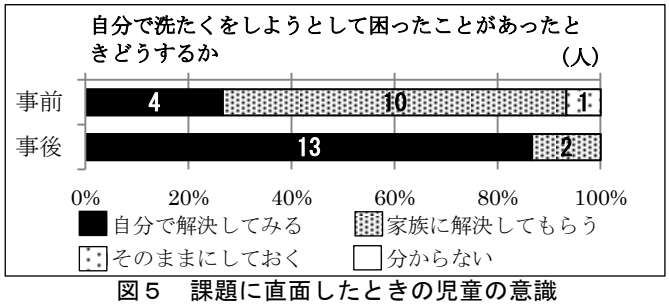


図５　課題に直面したときの児童の意識

学習前に比べると学習後は，家族に頼らず自分で課題を解決していこうとする児童が増えた。これは，課題を見いだし，その改善策を考え実践していく問題解決的な学習を繰り返す中で，課題を解決していく方法を児童が導き出せるようになったことによって生じた意識の変化と考える。

以上（１）（２）（３）から，児童は，生活の課題を解決するために必要なものの見方を身に付け，生活の課題を解決する方法を導き出すことができるようになったといえる。

## ３　学習したことを生活の場に生かして実践することができたか

### (1) 家庭実践シートの分析から

児童が家庭での洗濯④において家庭実践シートに記述した「気を付けたこと・やってみたこと」を表８に示す。

表８　家庭での洗濯④で気を付けたこと・やってみたこと

| 手順 | 気を付けたこと・やってみたこと |
|---|---|
| 準備 | ・衣服の仕分け　・取り扱い絵表示の確認<br>・洗剤の目安量を確認　・水の量の確認 |
| 洗う | ・つけおき洗い　・手もみ洗い　・こすり洗い<br>・足踏み洗い　・湯の使用　・漂白剤使用<br>・タワシの使用　・洗濯板の使用 |
| しぼる１ | ・洗剤をしっかり落とす　・洗濯機でしぼる |
| すすぐ | ・２～３回繰り返す |
| しぼる２ | ・ねじりしぼり　・部分しぼり |
| 干す | ・しわをのばして干す　・飛ばないようにとめる<br>・乾きやすいように干す　・洗濯かごを使う |
| 取りこむ | ・洗濯かごを使う　・虫予防にふるって取りこむ<br>・引っ張らないように丁寧に取りこむ<br>・乾いているか確認する |
| たたむ | ・次に着やすくするためにきれいにたたむ<br>・しわをのばしてたたむ |

洗濯④において児童が気を付けたこと，やってみたことは，洗濯①～③で導き出した改善策にあたるものであった。導き出した改善策の中から，全員の児童が７点以上意識して洗濯④を行っていた。さらに，「足踏み洗い」を家庭で教えてもらい，実際に汚れ落ちのよさを確かめた児童もいた。

以上のことから，児童は洗濯①～③を生かして家庭での洗濯④に取り組むことができたといえる。

### ４　問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させた題材構成は有効であったか

#### (1) 事後アンケートの分析から

「家庭科で洗濯などの実習を行い，うまくできなかったことを見付け改善していく家庭科の学習方法は自分の生活に役立つと思う」という項目において全員の児童が「よくあてはまる」と回答した。

#### (2) ワークシートの分析から

題材の終末時の児童の感想を下に示す。下線部は，本研究で取り入れた問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」に関わる記述である。

○　課題を見付けると改善策を考えて，その改善方法をやってみるといいということが分かった。今度家でいろいろな洗たくの仕方でやってみたい。（児童E）
○　いろいろたくさんの課題，そして改善策を見付けることによって，改善策を考えることができるようになった。今日からユニフォームなどは手洗いすると思うので常に課題を見付けながら洗たくできるようにしたい。（児童F）
○　課題を見付けて改善策を考えてその課題はなくなったけれど，またちがう課題がでてきての繰り返しをしていくうちに洗たくが上手にできるようになってきた。（児童G）
○　今まで勉強して出てきた課題の改善策を使ってもう一度家で洗たくをしたいと思った。これからも家で洗たくをして出た課題を自分で考えて改善策をだしてまた考えて洗たくをしたいと思った。（児童H）

問題解決的な学習に関わる児童の記述の一部

下線部の記述から，課題を見いだし改善策を考える学習によって，課題を解決する学習方法を身に付け，家庭での実践につなげようとする児童の実践的な態度がみられる。

以上（１）（２）から，問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させた題材構成は，見いだした生活の課題に応じて思考し，判断し，適切な解決方法を導き出しながら，よりよい生活をめざして主体的に行動する生活実践力の育成に有効であったといえる。

## Ⅵ　研究のまとめ

### １　研究の成果

本研究によって，自ら課題を見いだし，課題の解決方法を導き出し行動していく主体的な児童の姿が見られるようになった。よって，問題解決的な学習の「課題発見」「評価，改善」の過程を充実させ，題材構成を工夫した授業は，児童の生活実践力を育むことに有効であることが分かった。

### ２　今後の課題

児童は実践を通して様々な場面で課題を見いだすことができるようになった。しかし，導き出した課題の解決方法について交流し合い，様々な角度から検討し，深めていくには，設定した時間では十分ではなかった。今後は，課題を解決していく過程で考える場面を有効に設定したより精選された題材構成の工夫について，研究していく必要がある。

**【引用文献】**


1)　多々納道子・福田公子編（2005）：『教育実践力をつける家庭科教育法』大学教育出版 p.10
2)　西敦子（2005）：『生活実践力を育成する家庭科授業の創造』明治図書出版 p.22
3)　西敦子（2005）：前掲書 pp.22-23
4)　西敦子（2005）：前掲書 pp.22-23
5)　日本家庭科教育学会（2004）：「全国調査からみた家庭科の学習効果と家庭科カリキュラムへの提言」 p.28
6)　田中耕治（2007）：『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房 p.87
7)　佐賀県教育センター個別実践研究中学校家庭科教育委員会（平成24年）：「生活をよりよくしようとする生徒を育てるための家庭分野の学習における指導方法の工夫」 http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu-chousa/h24/08%20kateika/index.htm
8)　福田修（2009）：「『問題』とは何かを理解し，適切な発見方法を確立する」 http://impressbm.co.jp/articles/-/6605
9)　田辺克彦（平成20年）：「『問題解決能力』育成のためのガイドブック～『習得・活用・探究』への授業づくり～」神奈川県立総合教育センター p.7
10)　田辺克彦（平成20年）：前掲書 p.7
11)　荒井紀子・鈴木真由子・綿引伴子編（2009）：『新しい問題解決学習 Plan　Do　See から批判的リテラシーの学びへ』教育図書出版 p.84
12)　多々納道子・福田公子編(2005)：前掲書 p.36
13)　荒井紀子・鈴木真由子・綿引伴子編(2009)：前掲書 p.45
14)　金子佳代子・藤原孝子（2008）：『小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり』東洋館出版社 p.34